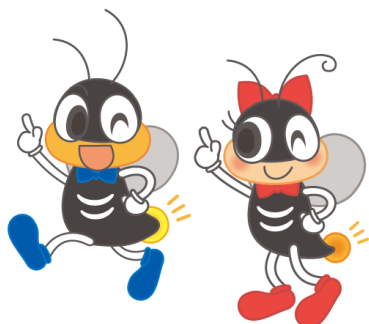


京都市上下水道事業中期経営プラン（2018-2022）

2019（平成 31）年度計画

—2019（平成 31）年度 京都市上下水道局運営方針—



上下水道局マスコットキャラクター
ホタルの澄都（すみと）くん、ひかりちゃん



目次

1	京都市公営企業管理者上下水道局長からのメッセージ	P 1
2	本計画の位置付け	P 1
3	水道事業・公共下水道事業を取り巻く状況	P 2
4	2019（平成 31）年度の主要事業	P 3
5	経営基盤強化計画	P 10
6	2019（平成 31）年度予算について	P 11
7	取組項目一覧	P 13



京都市
CITY OF KYOTO

京都市はSDGsを
支援しています。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す 17 の普遍的なゴール（目標）と、169 のターゲット（達成基準）であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。

SDGs の理念や方向性等については、「京（みやこ）の水ビジョン—あすをつくる—」及びその前期5箇年の実施計画「中期経営プラン（2018-2022）」等と共通するものであり、上下水道局ではビジョン及びプランに掲げた取組を着実に推進することにより、SDGs の達成に貢献していきます。

本計画の P3 「4 2019（平成 31）年度の主要事業」において、関連する SDGs の目標を示しています。

1 京都市公営企業管理者上下水道局長からのメッセージ

平成 31 年度は「京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー」及びその前期 5 箇年の実施計画「中期経営プラン(2018-2022)」の 2 年目として、老朽化した配水管更新のスピードアップや基幹施設の耐震化、雨に強いまちづくりに向けた雨水幹線の整備を進めるほか、局本庁舎移転を含む南部拠点整備事業において基本設計に着手します。

また、昨年 9 月の台風 21 号では、本市においても山間地域を含む市内の広い範囲で停電が発生し、一部の上下水道施設が停止するなど、市民生活への影響が生じたことから、防災・減災対策の強化を図り、本市のレジリエンスを高めてまいります。

水需要の減少や老朽化した管路・施設の改築・更新需要の増大等、厳しい事業環境下ではありますが、引き続き職員一丸となって各施策を着実に推進し、市民の皆さまの暮らしを支える水道・下水道を 50 年後、100 年後の未来に繋ぐ大きな責務を果たしてまいります。



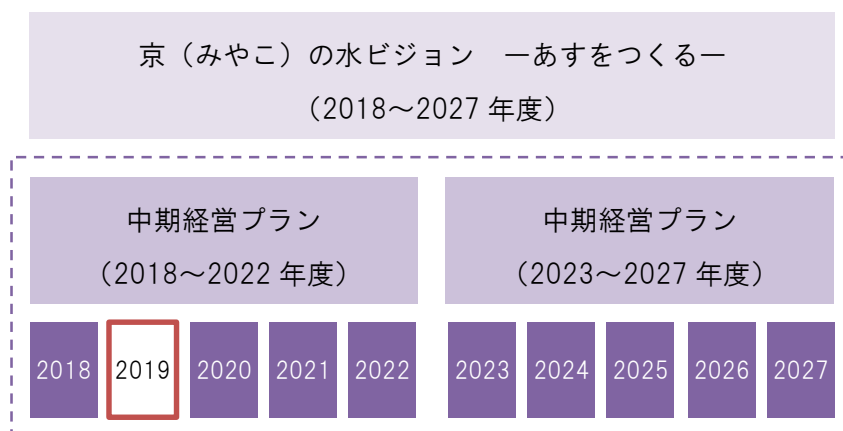
京都市公営企業管理者
上下水道局長
山添 洋司

2 本計画の位置付け

本市の水道・下水道は、人口減少等による水需要の減少に加え、管路や施設の老朽化が更に進むことで、経営環境は厳しさを増すほか、地震や大雨等の災害への備えや、これまでに培ってきた技術の継承、広域化・広域連携の本格的な検討の必要性など、様々な課題に直面しています。

上下水道局では、このような状況にあっても、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を将来にわたって守り続けるために、2018(平成 30)年3月に策定した、「京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー(2018-2027)」及びその前期5箇年の実施計画である「中期経営プラン(2018-2022)」に基づき事業を推進しています。

本計画は、ビジョン及びプランに掲げる事業を着実に推進するための単年度計画として策定するものであり、主に、プランを構成する2つの計画(「事業推進計画」及び「経営基盤強化計画」)の本年度の年次計画で構成しています。また、本計画は、本市の各局区等のマネジメント機能の強化と市民の皆さまとの情報共有、説明責任の充実を目的として策定・公表することとされている「局区運営方針」として策定するものです。



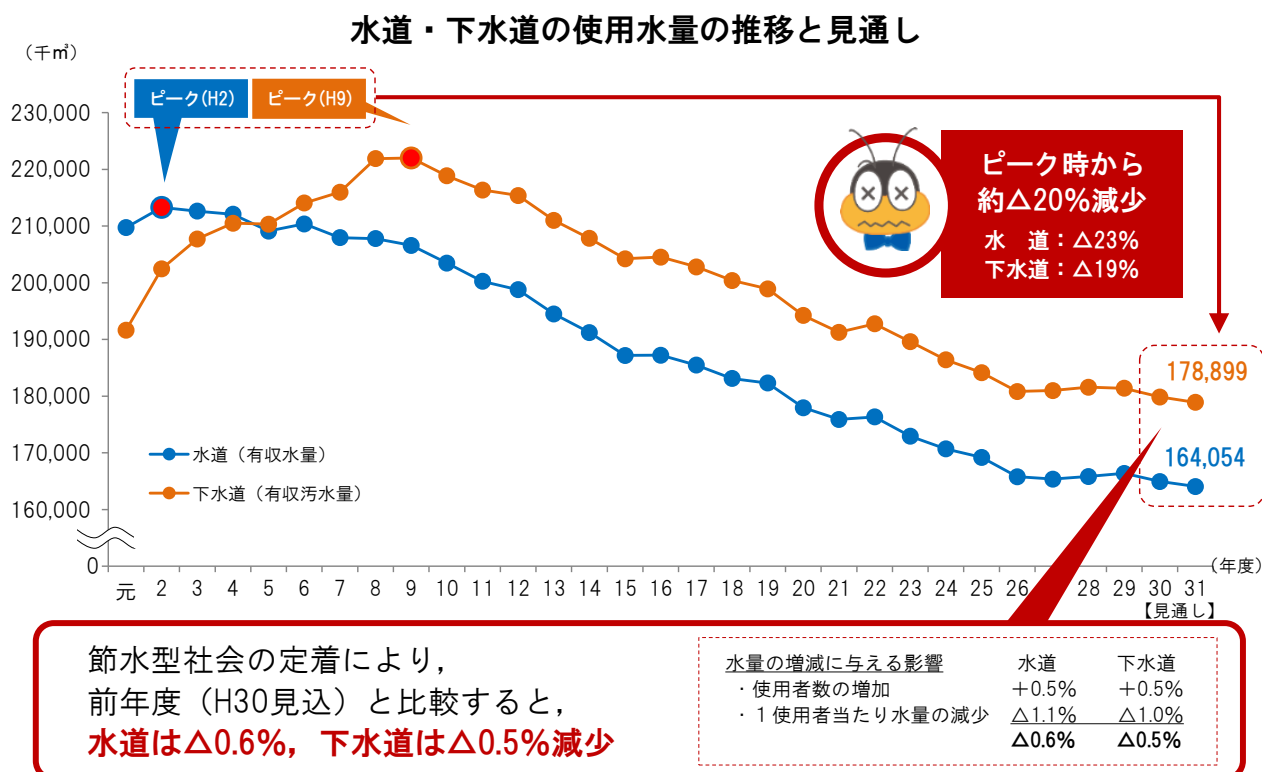
ビジョン・プランは上下水道局ホームページ
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000233138.html>)
を御覧ください。
事業の概要や背景・課題などについても詳しく記載しています！



3 水道事業・公共下水道事業を取り巻く状況

2019(平成 31)年度は、2018(平成 30)年度からスタートした「中期経営プラン(2018-2022)」の2年目として、水道事業における老朽化した配水管更新のスピードアップや、公共下水道事業における雨に強いまちづくりに向けた雨水幹線の整備のほか、2018(平成 30)年度に発生した地震や大雨を踏まえた防災・減災対策の強化を図り、「レジリエント・シティ」の実現に向け、事業を推進します。

財政面においては、使用水量がプランを下回り、プランに掲げた目標利益の達成が困難となる大変厳しい見通しの中、業務の見直しや民間活力の導入を進めるなど、効率的な事業運営による経費削減に努めます。



① 水道料金・下水道使用料収入

節水型社会の定着により使用水量がプランを下回り、減収の見通し

<水道料金収入> プラン 296.8 億円 ⇒ 予算 296.3 億円【△0.5 億円】

<下水道使用料収入> プラン 238.9 億円 ⇒ 予算 237.2 億円【△1.7 億円】

② 利益（建設改良や企業債償還のための積立金）

純損益は水道・下水道ともに黒字となる見込みの中、経費削減に努めるも、減収の影響により、プランに掲げた利益（積立金）の確保は、達成が困難な見通し

<水 道 事 業> プラン 21.0 億円 ⇒ 予算 19.6 億円【△1.4 億円】

<公共下水道事業> プラン 34.5 億円 ⇒ 予算 32.8 億円【△1.7 億円】

③ 長期的な視点に立った事業の推進

経営環境が厳しい中であっても、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を守り続け、本市のレジリエンスを高めるため、着実に事業を推進

- ・ 水道管路の改築更新・地震対策（更新のスピードアップ等） 119.8 億円
- ・ 浸水対策の推進（伏見第3導水きょ（雨水幹線）の供用開始等） 30.2 億円
- ・ 防災・減災のための装備等の強化（非常用発電設備の整備等） 4.2 億円

4 2019(平成31)年度の主要事業

ビジョンに掲げる取組の構成に沿って、
2019(平成31)年度の主要事業を御紹介します！



＜「京（みやこ）の水ビジョン ーあすをつくるー」の取組の構成＞

基本
理念

きょう

京の水からあすをつくる



視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

方針② はこぶ

方針③ まれいにする

方針④ ももる

方針⑤ いどむ



視点② 京の水でところをはぐくむ

方針① こたえる

方針② ゆたかにする



視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

方針② させえる

本ビジョンでは、基本理念「京の水からあすをつくる」に基づき、
視点①「京の水をみらいへつなぐ」、
視点②「京の水でところをはぐくむ」、
視点③「京の水をささえつづける」の3つの視点を掲げます。
そして、視点に対して9つの「方針」を掲げ、これらの下、
30の取組を体系的に構成します。

きょう 京の水からあすをつくる



視点① 京の水をみらいへつなぐ

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針① つくる

水質管理（水道）、浄水場の改築更新や維持管理

（関連する SDGs 目標）



3 保健



6 水・衛生

水質自動監視装置の更新・増設

予算 水道 2.2 億円



（水質自動監視装置の監視画面）

水質の変化・異常に対して迅速に対応するため、2019（平成31）年度は、2018（平成30）年度に策定した更新・増設計画に基づき、山間地域に水質自動監視装置を設置する工事に着手します。

【主な工事計画等】

山間地域の水質自動監視装置設置及び機能増設工事の実施設計
（2019 年度）

水質自動監視装置設置及び機能増設工事実施
（事業年度：2019～2020 年度）

水道施設の改築更新・地震対策

予算 水道 27.5 億円



（配水池更新工事の様子）

新山科浄水場導水トンネル及び松ヶ崎浄水場の高区1・2号配水池の更新・耐震化等に引き続き取り組み、基幹施設の改築更新・耐震化を進めます。

また、2019（平成31）年度は、新山科浄水場2系ちんでん池改良、蹴上浄水場第1最高区配水池耐震化、松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新等の工事に着手します。

【主な工事計画等】

新山科浄水場高区2号配水池耐震化工事実施（事業年度：2019～2020 年度）

蹴上浄水場第1最高区配水池耐震化工事実施（事業年度：2019～2020 年度）

松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新工事実施（事業年度：2019～2021 年度）

水道管路の改築更新・地震対策

予算 水道 **119.8 億円**



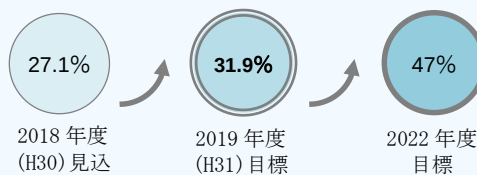
(配水管工事の様子)

老朽化した水道管路の更新をスピードアップするとともに、更新に合わせて耐震性・耐久性に優れる管材料を使用し、地震に強い水道管路を整備します。

2019（平成 31）年度は、約 56km の水道管路の改築更新・地震対策を進めます。

また、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管を布設し、バックアップ機能の強化を図ります。

【中期経営プラン数値目標】老朽配水管の解消率（※）



（※）老朽配水管（昭和 34～52 年に布設した耐震性に劣る初期ダクタイル鋳鉄管）の平成 21 年度（更新事業開始年度）当初延長に対する更新済の延長の割合

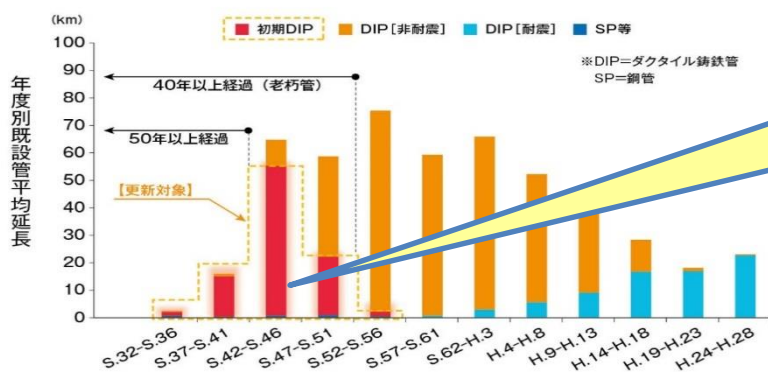


<水道配水管の更新と耐震化について>

「配水管」の老朽化が全国的に問題となっています。京都市においても昭和 40 年代～50 年代以前に布設した配水管の老朽化が進んでいることから、近年では昭和 34～52 年に布設した耐震性の劣る初期ダクタイル鋳鉄管を老朽配水管と位置付け、順次、大きな地震の際にも継手が抜けない構造となっている「耐震管」に更新しています。

「京の水ビジョンーあすをつくるー（2018-2027）」では、**10 年間で老朽配水管の解消率（※）を 23% から 76% まで引き上げる**予定です。

※初期ダクタイル鋳鉄管の平成 21 年度（更新事業開始年度）当初延長に対する更新済の延長の割合



2027 年までに
解消率を
76%まで引上げ

また、管路は順次老朽化していくことから、一定のペースで更新していく必要があります。そのため、京都市では更新率（1 年間に更新する配水管延長の全延長に占める割合）を平成 25 年度からペースアップしており、近年漏水件数が増加している補助配水管（口径 75mm 以下の配水管）も含めた**配水管全体の更新率を 1.5% まで引き上げる**こととしています（山間地域を除く※）。これは大都市（東京都及び政令市）における管路更新率の平均（約 1%）と比較しても高い水準です。

なお、漏水や断水の発生リスクを抑えつつ、配水管の使用可能年数や更新に必要な事業費等を勘案すると、当面は 1.5% の更新率が最適であると考えています。

※ 山間地域は市街地に比べて新しい配水管が多く、法定耐用年数を超える延長の割合も少ないことから、上記更新率に含めていません。



老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



3 保健 6 水・衛生

下水道管路の改築更新・地震対策

予算 下水道 26.4 億円



(下水道管路の更生工事の様子)

更生工法（長寿命化）や布設替えにより、老朽化した下水道管路の計画的な更新と重要な下水道管路の耐震化を進めます。

2019（平成 31）年度は、約 33km の下水道管路の改築更新・地震対策を進めます。

【中期経営プラン数値目標】下水道管路改築・地震対策率（※）



(※) 対策済管路延長÷破損等のリスクが高い旧規格の管路延長

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します



水質管理（下水）、水環境保全センターの改築更新や維持管理



6 水・衛生 14 海洋資源

下水処理施設の改築更新・地震対策

予算 下水道 51.1 億円



(下水処理施設の改築工事の様子)

水環境保全センターの主要な施設について、日常の点検整備に基づいた改築更新を進めるとともに、重要な施設については改築更新に合わせて耐震化を図ります。

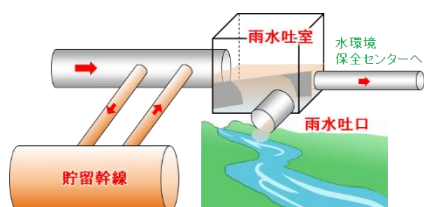
2019（平成 31）年度は、伏見水環境保全センターの分流系最初ちんでん池改築工事等に着手します。

【主な工事計画等】

伏見水環境保全センター分流系最初ちんでん池改築工事
(事業年度：2019～2022 年度)

水環境対策（合流式下水道の改善）

予算 下水道 28.7 億円



(合流式下水道の改善イメージ)

汚水と雨水を一本の管きよで合わせて流す合流式下水道は、雨が強く降ると、汚水の混じった雨水が河川に流出することがあるため、その流出量を減らし、河川の水環境を守る対策を進めます。

2019（平成 31）年度は、津知橋幹線等の整備を引き続き実施します。

【中期経営プラン数値目標】合流式下水道改善率（※）



(※) 合流式下水道改善済面積÷合流式区域面積

南部エリアの事業・防災拠点の整備に関する検討

予算

水道

下水道

2.2 億円



「南北2箇所の事業・防災拠点」の実現に向けて、地下鉄十条駅西側に位置する元資器材・防災センター用地を活用して市内南部エリアの事業・防災の拠点を整備します。

2019（平成31）年度は、事業手法等の検討を踏まえて、整備の具体的な手続に着手するとともに、用地の土壌汚染対策を実施します。

【事業スケジュール】

2019（平成31）年度	実施方針等の公表，事業者選定，基本設計
2020年度	実施設計，建設工事
2021年度	建設工事
2022年度	竣工，開庁，維持管理開始

防災・減災のための装備等の強化

予算

水道

下水道

4.2 億円



給水車

2018（平成30）年度に発生した地震や大雨，台風等を踏まえ、防災・減災のための装備等を強化します。

2019（平成31）年度は、災害発生時に飲料水を確保するための給水車や仮設給水槽の配備，災害用マンホールトイレの整備を引き続き進めるほか、大規模な停電に備え、山間地域の水道施設に非常用発電設備の整備を進めるなど、取組を充実させます。

【配備・整備計画】

- ・水道管路管理センター南部配水管理課に給水車1台（1.5t）を配備
- ・旧資器材・防災センターに仮設給水槽を増設
- ・災害用マンホールトイレを避難所となる小中学校等（16箇所）に整備
- ・山間地域の水道施設における非常用発電設備の整備（事業年度：2018～2020年度）



非常用発電設備

浸水対策の推進

予算

下水道

30.2 億円

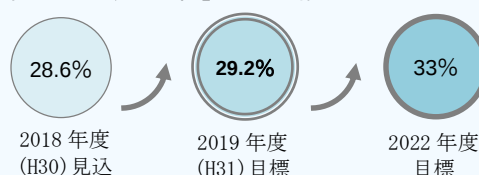


（施工中の雨水幹線の内部（施設見学会））

「雨に強いまちづくり」を推進し、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進めます。

2019（平成31）年度は、伏見第3導水きょ及び山科川13-1号雨水幹線の供用を開始するとともに、西部1号・2号分流幹線の整備を引き続き実施します。

【中期経営プラン数値目標】雨水整備率（10年確率降雨対応）（※）



（※）10年確率降雨（1時間あたり62ミリ）に対応した浸水対策実施済面積÷公共下水道事業計画区域面積

「緊急ダイヤル」の設置による危機管理体制の強化



緊急対応の様子

2019（平成 31）年 4 月 1 日から、「緊急ダイヤル」を新たに設置し、夜間（午後 9 時から翌日午前 8 時 30 分）における、漏水、にぎり水、道路陥没などの緊急通報を、水道管路管理センターの職員が受け付けることにより、これまで以上に迅速・的確に対応します。

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

方針⑤ いどむ

新技術の調査・研究、広域化・広域連携等



6 水・衛生



9 イノベーション

未来につながる調査・研究の充実

予算

水道

下水道

77 百万円



水質試験（生物試験） かび臭原因微生物（アナベナ）



（管路内調査画像（下水道））

水道では、異臭を除去する性能に優れる高機能粉末活性炭について調査・研究を行います。また、ICT等の新技術についても、調査を進めます。

下水道では、画像認識（AI）を活用した管きよの劣化診断技術の調査等を行います。また、大都市と連携し全国的な課題（施設の劣化調査等）についても調査研究を行います。

これらのほか、引き続き、民間企業等と連携した共同研究についても積極的に実施します。

さらに、広域化・広域連携等の課題に関する調査・研究を行い、技術面に留まらず、経営面からも未来の上下水道に向けた取組を進めます。

広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮



本市と同様に、近隣の市町村においても、水需要の減少や管路・施設の老朽化等が課題となる中、府内唯一の政令市かつ府内の半数以上の人口を有する最大の事業者として、リーダーシップを発揮して広域化・広域連携の検討を進めます。

2019（平成 31）年度は、水道・下水道の各分野で以下の取組を実施する予定です。

<2019（平成 31）年度の主な取組（予定）>

水道

- ・水道技術研修施設における他都市受入れ実施
- ・京都府下市町等との合同防災訓練の実施
- ・「京都水道グランドデザイン」に基づき区分された府下 3 圏域（北部・中部・南部（本市は南部））ごとに、府が設置する協議会において議論・検討

下水道

- ・下水道事業における広域化・共同化について、府及び府下市町村との協議を継続

（注） 広域化・広域連携の検討等に係る経費は、関連する各事業の中に含まれています。



視点② 京の水でここをはぐくむ



分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

方針① こたえる

お客さまサービス、広報・広聴活動



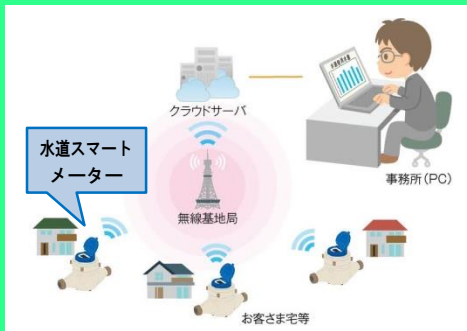
4 教育



16 平和

水道スマートメーターの実証試験の実施

予算 水道 3 百万円



山間地域を中心に、水道スマートメーター（IoT機器）を試験的に導入し、取得したデータの活用（検針困難箇所への対応、漏水の早期発見等）について効果や課題を検証します。

2018（平成 30）年 12 月から、民間企業との共同研究により実証試験を行っています。

戦略的な広報活動（琵琶湖疏水記念館開館 30 周年記念事業、ミスト事業等）

予算 水道 下水道 73 百万円



（「いい風呂の日」街頭キャンペーン）

琵琶湖疏水記念館（3/8 にリニューアル）の開館 30 周年記念事業のほか、ミスト事業（京都駅前バスのりばでの事業拡充）や、お風呂の魅力・効能を啓発するイベントの実施など、対象や媒体（手段）を効果的に組み合わせ、体系的な広報活動を実施します。

小学生や観光客など幅広い皆さまが楽しみながら学んでいただけるよう、展示や空間を刷新しました！



琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

方針② ゆたかにする

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



7 エネルギー



8 成長・雇用

琵琶湖疏水通船事業

予算 水道 34 百万円



（琵琶湖疏水通船事業）

2018（平成 30）年春から本格運航を開始した琵琶湖疏水通船事業について、2019（平成 31）年度は、高い乗船率を維持するための企画等の推進、疏水の魅力を発信するガイドの育成のほか、新たな船舶（3 隻目）を建造します。

本格運航初年度は、乗船率が 98.3% となるなど御好評をいただきました。2019（平成 31）年度は、3 隻目となる新船を建造するなど、観光部局等と連携しながら疏水の魅力を更に高め、発信します！

大規模太陽光発電事業

収入予算 水道 下水道 1.5 億円



（鳥羽水環境保全センターの太陽光発電設備）

環境に配慮した事業運営を推進するため、浄水場及び水環境保全センターに設置している大規模太陽光発電設備により、再生可能エネルギーの継続的な利用を図ることで、温室効果ガス排出量の削減に貢献するとともに、発電した電力を売却し、事業運営に活用しています。



視点③ 京の水をささえつづける



これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

方針① になら

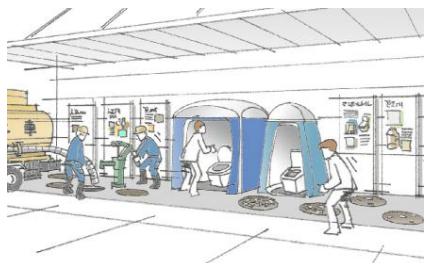
職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



9 イノベーション 17 実施手段

技術継承に向けた体験型研修施設の整備

予算 下水道 2.3 億円



(研修施設完成イメージ)

今後経験豊富なベテラン職員の多くが退職していく中、技術継承と担い手の育成を図るため、鳥羽水環境保全センター内で下水道技術研修施設の整備を進めます。本施設は、市民の皆さまに下水道の仕組みを理解していただくための見学時にも活用します。

水道技術研修施設については、上下水道局職員の技術研修を実施するなど、運用を図っています。



市民向け講座の開催

予算 水道 1.3 百万円



(琵琶湖疏水記念館)

市民の皆さまと一体となって水道・下水道を支え続けるために、市民の皆さまを対象とした講座を開催します。

2019（平成 31）年度は、リニューアル後の琵琶湖疏水記念館において、疏水の歴史等に関する講座を開催する予定です。

【開催スケジュール】

琵琶湖疏水の歴史などをテーマにした講座などを6回程度開催



方針② ささえる

50 年後、100 年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



6 水・衛生 9 イノベーション

民間活力の導入（お客さま窓口サービスコーナー、水環境保全センター水処理施設運転管理業務）

予算 水道 下水道 2.3 億円



(お客さま窓口サービスコーナー)

上下水道局本庁舎1階のお客さま窓口サービスコーナーを民間委託化するとともに、石田水環境保全センターの運転管理業務委託において、委託内容に保守点検業務を追加することにより、更なる民間活力の導入を図ります。

【お客さま窓口サービスコーナー】

2019（平成 31）年度から、電話受付時間を午後7時から午後9時まで延長（年中無休）し、お客さまの利便性の向上に努めます。

保有資産の有効活用

収入予算 水道 17.5 億円



(山ノ内浄水場跡地)

財務体質の更なる強化に向けた取組として、保有資産の有効活用を進めます。

2019（平成 31）年度は、引き続き、山ノ内浄水場跡地等の貸付を実施するとともに、元営業所の跡地等の売却を実施します。

5 経営基盤強化計画

中期経営プラン(2018-2022)に掲げる「経営基盤強化計画」に基づき、2019(平成 31)年度は以下の取組を実施します。

① 業務執行体制の効率化(第6期効率化推進計画)

取組内容

- 事業・防災拠点の整備及び緊急対応体制の再編
- 改築更新・耐震化の更なる推進体制の構築
- 変化する経営環境への的確な対応及び企業力の更なる向上に向けた組織改革
- 民間活力の積極的な導入及び業務執行体制の見直し



民間活力の積極的な導入 (2019 (平成 31) 年度実施内容)

- ・ お客さま窓口サービスコーナーの民間委託化
(上下水道局本庁舎 1 階)
- ・ 水環境保全センター運転管理業務の委託拡大
(石田水環境保全センター)



お客さま窓口サービスコーナー



施設の点検・洗浄

② 効率的な事業運営による物件費の削減

取組内容

- 配水管更新の実施による漏水修繕費の削減
- 高機能な粉末活性炭の導入による薬品費等の削減
- 汚泥消化タンクの再整備による都市ガス購入経費の削減
- 事業所の統廃合による建設再投資等の削減

※上記のほか、あらゆる業務について再点検と見直しを行うことにより、経費削減の取組を推進します。



汚泥消化タンクの再整備による都市ガス購入経費の削減

2014 (平成 26) 年度から再整備に着手した汚泥消化タンク関連施設が、2018 (平成 30) 年度に供用を開始したことにより、消化ガスを発生させることが可能となり、使用量が増加しています。

これにより、化石燃料である都市ガス使用量が減少し、燃料費及び温室効果ガス排出量の削減に寄与しています。



汚泥消化タンク

取組による財政効果(①+②)

区分	業務執行体制の適正化(①)		物件費の削減(②)	計(①+②)
	削減人数(人)	財政効果(億円)	財政効果(億円)	財政効果(億円)
水道	△13 【△4】	△5	△2.5	△7.6
下水道	△14 【△1】	△2	△4.3	△6.2
計	△27 【△5】	△7	△6.8	△13.8

注1 削減人数の【 】内は嘱託員の削減人数で外数。財政効果は、退職給付引当金の削減効果を含みます。

2 物件費の削減効果には人員削減に伴う委託経費等の増加を含み、資金的収支に係る効果を除きます。

3 上表は 2018(平成 30)年度末から 2019(平成 31)年度末までの削減人数及び財政効果を記載しています。

6 2019(平成31)年度予算について

当年度予算のポイントを
御説明します！



① 水道料金・下水道使用料収入

節水型社会の定着による水需要の減少傾向が継続していることから、水道事業・公共下水道事業ともに前年度から減収を見込んでいます。

＜水道料金・下水道使用料収入の見通し＞

区分	プラン	2019 年度 予算
水道	296 億 81 百万円	296 億 35 百万円
下水道	238 億 89 百万円	237 億 15 百万円

水道

【水道料金収入】

プランに対して△0.5 億円の減収

下水道

【下水道使用料収入】

プランに対して△1.7 億円の減収

② 純利益(積立金)

効率的な事業運営に努めることで利益を確保し、水道事業では配水管更新の財源に、公共下水道事業では企業債償還等の財源にそれぞれ充当します。

＜プランに掲げた利益(積立金) 目標の確保状況＞

区分	2018 年度 見込	2019 年度 予算
水道	27.2 億円 (目標 22.2 億円)	19.6 億円 (目標 21.0 億円)
下水道	33.7 億円 (目標 32.6 億円)	32.8 億円 (目標 34.5 億円)

中期経営プラン(2018-2022) 5箇年の財政目標

水道

配水管更新のため、
積立金として
100 億円を確保

下水道

企業債償還や将来の大規模
更新のため、積立金として
160 億円を確保

③ 企業債残高の削減

②により企業債発行を抑制し、企業債残高を水道事業・公共下水道事業合わせて142 億円を削減します。

＜2019 年度末の企業債未償還残高の見通し＞

区分	2018 年度 見込	2019 年度 予算	削減額 (2018-2019)	【参 考】 削減額 (2017-2019)
水道	1,663 億円 (1,663 億円)	1,618 億円 (1,638 億円)	△45 億円 (△25 億円)	△110 億円 (△90 億円)
下水道	2,900 億円 (2,900 億円)	2,803 億円 (2,814 億円)	△97 億円 (△86 億円)	△309 億円 (△298 億円)
計	4,563 億円 (4,563 億円)	4,421 億円 (4,452 億円)	△142 億円 (△111 億円)	△419 億円 (△388 億円)

注 () 内は、プランにおける目標値

中期経営プラン(2018-2022) 5箇年の財政目標

水道

【企業債残高の削減】

△124 億円

下水道

【企業債残高の削減】

△567 億円

水道事業・公共下水道事業を合わせた企業債残高
4,840 億円(2017(H29)見込)→4,149 億円(2022 目標)

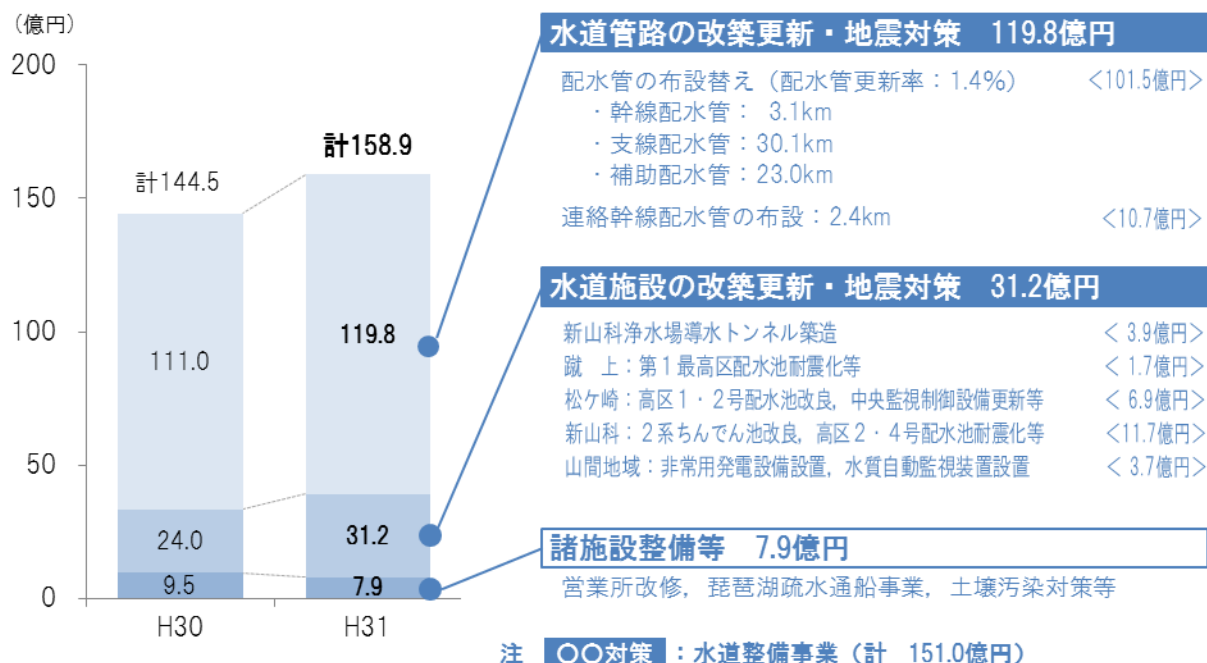
④ 整備事業の内容

水道事業及び公共下水道事業の整備事業の予算規模及び内容は、以下のとおりです。

水道事業

2019 年度建設改良事業（建設改良費：158.9 億円）

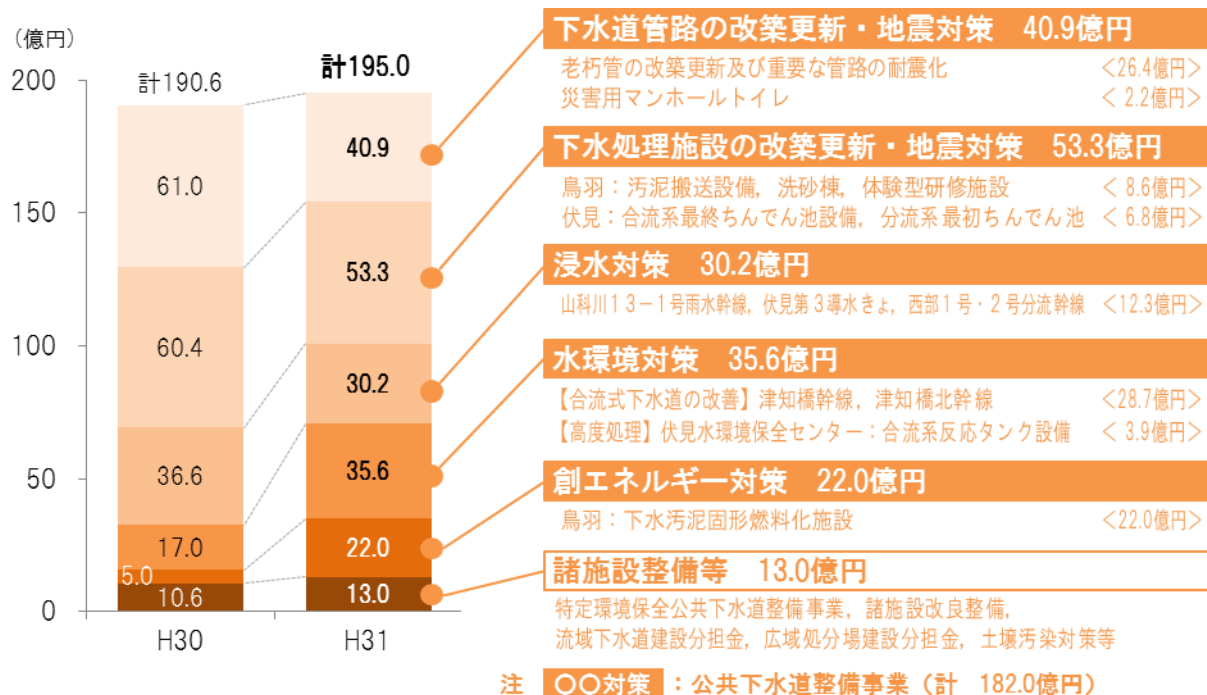
（内訳は主な事業）



公共下水道事業

2019 年度建設改良事業（建設改良費：195.0 億円）

（内訳は主な事業）



7 取組項目一覧

具体的な実施内容と目標等を紹介します。



視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 水源から蛇口までの水質管理の徹底		
<u>水質監視の強化</u> 3 ページ参照 (水質自動監視装置の更新・増設)	○ 水質監視装置更新・増設計画に基づき山間地域の水質自動監視装置設置及び機能増設工事の実施設計（2019 年度） ○ 山間地域の水質自動監視装置設置及び機能増設工事実施（事業年度：2019～2020 年度）	水道部施設課
水質検査の徹底	○ 平成 31 年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施 ○ 平成 32 年度水道水質検査計画の策定 ○ 水道 G L P の認証に基づく精度の高い水質検査の実施	技術監理室水質第 1 課
水安全計画の継続的な運用	○ 水安全計画の運用，見直し	水道部管理課
② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進		
最適な浄水処理の推進	○ 臭気除去性能を検証するため，3 浄水場（蹴上，松ヶ崎，新山科）において，既存注入設備による高機能な粉末活性炭の注入を実施 ○ 高機能な粉末活性炭注入設備設置工事に係る基本計画の策定及び基本設計の実施（2018～2020 年度）	水道部管理課 水道部施設課
施設の機能を維持するための適切な維持管理	○ 増圧施設，山間地域等の施設の基本情報データベース化（2018～2020 年度）	水道部管理課
③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化		
<u>新山科浄水場導水トンネルの更新・耐震化</u> 3 ページ参照 (水道施設の改築更新・地震対策)	○ 新山科浄水場導水トンネル築造工事実施（事業年度：2017～2027 年度）	水道部施設課
<u>基幹施設の改築更新・耐震化</u> 3 ページ参照 (水道施設の改築更新・地震対策)	○ 新山科浄水場ちんでん池耐震化工事実施（事業年度：2019～2022 年度） ○ 蹴上浄水場第 1 最高区配水池耐震化工事実施（事業年度：2019～2020 年度） ○ 松ヶ崎浄水場高区 1・2 号配水池改良工事実施（事業年度：2017～2021 年度） ○ 新山科浄水場高区 4 号配水池耐震化工事実施（事業年度：2018～2019 年度） ○ 新山科浄水場高区 2 号配水池耐震化工事実施（事業年度：2019～2020 年度） ○ 松ヶ崎浄水場中央監視制御設備更新工事実施（事業年度：2019～2021 年度）	水道部施設課

方針② はこぶ		
取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 配水管等の適切な維持管理の推進		
漏水調査や配水管洗浄の継続的な推進	○ 漏水調査の実施 3,000km ○ 配水管の洗浄作業（「京（みやこ）の水道管おそうじプロジェクト」）の実施	水道部水道管路課 水道部水道管路管理センター
効果的・効率的な維持管理体制の構築	○ 水道管路の維持管理部門における南部エリアの体制の構築	水道部管理課
② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化		
配水管の更新・耐震化の推進 4 ページ参照 （水道管路の改築更新・地震対策）	○ 老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 56km ・ 配水管更新・耐震化工事実施 33km ・ 補助配水管更新・耐震化工事実施 23km ※ 老朽配水管の解消率 31.9%（2019 年度末）	水道部水道管路課 水道部水道管路管理センター 水道部水道管路建設事務所
地震等災害時における給水のバックアップ機能強化 4 ページ参照 （水道管路の改築更新・地震対策）	○ 最高区吉田連絡幹線配水管 布設工事完了（事業年度：1999～2019 年度） ○ 低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施（事業年度：2014～2022 年度） ○ 高区花園連絡幹線配水管 布設工事実施（事業年度：2014～2020 年度） ○ 高区岡崎連絡幹線配水管 布設工事実施（事業年度：2019～2023 年度）	水道部水道管路課 水道部水道管路建設事務所
③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上		
受水槽の適正な維持管理の啓発と直結式給水のPR	○ 貯水槽水道の設置者への啓発・助言 ・ 戸別訪問の実施 ・ 貯水槽の適正な管理の指導及び直結式給水への切替えに関する情報提供の実施 ○ 直結式給水のPR ・ 局ホームページへの直結式給水に関する情報の掲載 ・ 貯水槽水道設置者への戸別訪問の実施による直結式給水への切替えに関する情報提供及びPR強化	水道部水道管路課 水道部水道管路管理センター
指定給水装置工事事業者への適切な指導	○ 新規事業者を対象とした説明会の実施 ○ 事業者への指導の継続実施（文書通知等）	水道部水道管路課
宅地内における鉛製給水管取替助成金制度の継続	○ 助成金制度の継続実施	水道部水道管路課
④ 下水道管路の適切な維持管理の推進		
計画的な維持管理の推進	○ 下水道管路の計画的な巡視や点検を実施 ○ 腐食のおそれが大きい箇所点検調査 3.0km ○ 修繕履歴等を含めた管路情報のデータベース化	下水道部管理課
⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化		
計画的な管路内調査及び改築更新・耐震化の推進 5 ページ参照 （下水道管路の改築更新・地震対策）	○ 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km	下水道部設計課、 下水道建設事務所、 計画課
⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨		
未水洗家屋の解消に向けた水洗化勧奨の推進	○ 全戸訪問による水洗化勧奨の実施	下水道部管理課
工場・事業場排水の監視及び指導	○ 事業場への立入による監視及び指導の実施 ・ 監視及び指導のための立入検査回数 1,200 回以上	下水道部施設課

方針③ きれいにする		
取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上		
適切な維持管理の実施	○ 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施 ○ 基本情報や修繕履歴等のデータベース化	下水道部施設課， 計画課
良好な処理水質の維持・向上	○ 水質管理計画の見直し・継続運用 ○ 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施 ・ 処理コスト削減と水質維持の両立	技術監理室水質第 2 課 下水道部施設課
② 水環境保全センター施設の再構築		
<u>水環境保全センター施設の改築更新・耐震化</u> 5 ページ参照 (下水処理施設の改築更新・地震対策)	○ 伏見水環境保全センター分流系最初ちんでん池改築工事着手（事業年度：2019～2022 年度）	下水道部下水道建設事務所，計画課，設計課
③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善		
<u>貯留管による合流式下水道の改善対策</u> 5 ページ参照 (水環境対策(合流式下水道の改善))	○ 津知橋幹線等工事实施（事業年度：2016～2021 年度）	下水道部下水道建設事務所，計画課，設計課

方針④ まもる		
取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化		
事業・防災拠点の整備及び危機管理に係る体制の強化	○ <u>市内南部エリアを所管する事業・防災拠点の整備に係る事業者の選定，基本設計の着手</u> 6 ページ参照(南部エリアの事業・防災拠点の整備に関する検討) ○ 「緊急ダイヤル」の本格実施 7 ページ参照(「緊急ダイヤル」の設置による危機管理体制の強化) ○ B C P や各種マニュアルの点検・修正，防災装備の充実（迅速な情報共有のためにテレビ会議システムや通信機器などの端末を充実）	総務部総務課， お客さまサービス推進室 水道部管理課 下水道部管理課
<u>施設整備の強化</u> 6 ページ参照 (防災・減災のための装備等の強化)	○ 仮設給水槽配備の推進 ○ 山間地域の水道施設における非常用発電設備の整備（事業年度：2018～2020 年度） ○ 災害用マンホールトイレの継続的な整備 ・ 避難所となる小中学校等（16 箇所）	総務部総務課 水道部施設課 下水道部下水道建設事務所，設計課，計画課
② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化		
危機管理対策の積極的な広報等による市民の防災意識の向上	○ 防災情報を整理したパンフレットの作成及び啓発 ○ 災害用備蓄飲料水を活用した飲料水備蓄の普及啓発 ・ 一般公開や各種イベントにおける無償配布の実施 ・ 市民しんぶんへの掲載等による普及啓発	総務部総務課
防災訓練の充実による連携体制の強化	○ 京都府下市町や関西自治体等と合同での防災訓練の実施 ○ 防災拠点の 2 拠点化を踏まえた，当局における実践的な防災訓練の実施	総務部総務課

取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進		
<u>施設整備による浸水対策の推進</u> 6 ページ参照（浸水対策の推進） （鳥羽第3導水きよをはじめとした施設整備）	○ 伏見第3導水きよ及び山科川13-1号雨水幹線の供用開始（事業年度：2015～2019年度）	下水道部下水道建設事務所，設計課，計画課
浸水被害軽減に向けた細やかな対策	○ 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進（設置助成金制度） - 雨水貯留施設目標 120 基 - 雨水浸透ます目標 240 基 ○ 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進 - 地区別や課題に応じた検討会の開催等	下水道部管理課，計画課

方針⑤ いどむ

取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究		
<u>新技術に係る調査・研究の実施</u> 7 ページ参照 （未来につながる調査・研究の充実）	○ 新技術の調査・研究の実施 - 異臭を除去する性能に優れる高機能粉末活性炭に関する調査研究 - 画像認識（AI）を活用した管きよの劣化診断技術の調査等 - 大都市と連携した全国的な課題（施設の劣化調査等）についての調査研究	技術監理室監理課 下水道部計画課
外部機関との共同研究の実施	○ 局HPによる募集を実施，共同研究を検討	技術監理室水質第1課
研究成果等の外部への発信	○ 全国水道研究発表会，全国下水道研究発表会等での研究成果等の発信	技術監理室監理課
② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮 7 ページ参照（広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮）		
広域化・広域連携の在り方に係る検討	○ 広域化・広域連携の在り方の検討 - 京都府主催の協議会等への参加を通じた府及び近隣自治体との連携 - 広域化・広域連携に係る局内ワーキングの実施	経営戦略室
府内各事業体との情報交換や技術支援，危機管理体制に係る検討	○ 情報交換及び共同研修の実施 - 京都府主催の協議会等への参画 - 日水協京都府支部における研修等の実施 - 水道技術研修施設の活用開始 ○ 人事交流の実施 - 周辺市町との人事交流の実施 ○ 水質検査等の受託に係る検討 - 京都府との協議及び情報収集の実施 ○ 新たな危機管理体制の構築 - 他都市との合同防災訓練の実施	総務部総務課 企業力向上推進室 総務部職員課 経営戦略室 技術監理室水質第1課
流域関係者とのパートナーシップによる琵琶湖・淀川流域全体の水環境保全	○ 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画 淀川水質汚濁防止連絡協議会や琵琶湖・淀川水質保全機構が実施する調査・研修・報告会への参加及び情報収集の実施 等	技術監理室水質第1課 水道部施設課 下水道部施設課，計画課

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成		
国際協力事業の推進	○ JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ ・ 大阪市・神戸市と合同でJICA課題別研修「都市上水道維持管理」の受入れを実施 ・ その他、海外からの研修・視察受入れ等の積極的な実施 ○ JICA能力強化研修等への受講機会の設定 ○ IWA（国際水協会）会議・展示会参加研修（日本水道協会主催）等の国際会議への論文発表	経営戦略室
新たな可能性を追求するための調査・研究の推進	○ 他都市との情報交換や民間事業者との協議等の実施	経営戦略室

視点② 京の水でところをはぐくむ

方針① こたえる

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化		
営業所組織の再構築	○ 防災拠点として給水車等を活用した応急給水訓練の実施 ・ 給水車、仮設給水栓を活用した応急給水訓練の実施 ・ 給水車の運転、操作研修の実施	総務部お客さまサービス推進室
積極的なマーケティングリサーチの推進	○ 鉛製給水管の解消に向けた周知及び下水道接続確認業務の実施 ○ 大口使用者利用状況調査の充実 ・ 大口使用者等への調査結果の検証 ○ 地下水等利用専用水道使用者への訪問 ○ 民間賃貸マンションの各戸検針・各戸徴収サービスに係る周知及びサービスの開始 ○ 一元化されたお客さま情報を活用するサービスの検討	総務部総務課， お客さまサービス推進室
② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開		
インターネット等を活用した新たなサービスの展開	○ 使用水量等のインターネット閲覧サービスに係るPRの促進 ○ インターネットによるクレジットカード継続払い申込みサービスのPR ○ 納付書支払窓口の拡充に係る制度検討 ○ 充実した「積極的に行動するサービス」の実施	総務部お客さまサービス推進室
IoTの活用等も見据えたサービスの在り方の研究	○ <u>水道スマートメーターの導入に伴う効果等の研究及び試験的導入</u> 8ページ参照(水道スマートメーターの実証試験の実施) ○ 使用水量に応じたポイント付与制度及び「水道使用水量のお知らせ」の内容を音声で伝えるサービスなど新たなサービスの実施に向けた検討・実施	総務部お客さまサービス推進室 水道部水道管路課

取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進		
戦略的な広報活動の推進 8 ページ参照（戦略的な広報活動（琵琶湖疏水記念館開館 30 周年記念事業、ミスト事業等））	○ 戦略的な広報計画の策定及び取組の充実 - 戦略的な広報計画の策定（毎年度） - 利き水体験や、お風呂の魅力や効能を啓発するワークショップ等の参加型・体験型のイベントの実施 - 琵琶湖疏水記念館開館 30 周年記念事業の実施 - 子ども向け水道水 P R プログラム「わくわく すいどうひろば」の実施 ○ 事業への理解促進、水道水や雨水の活用推進に向けた広報活動の展開 - 鳥羽水環境保全センター・蹴上浄水場一般公開や施設見学会等の開催 「おいしい！大好き！京（みやこ）の水キャンペーン」の実施 「水道水・雨水で花いっぱい！」の取組の展開 「京の駅ミスト」の実施及び京都駅前バス A のりばへの拡充 「京のまちなかミスト」の実施 - ミスト装置貸出の実施 「京の水飲みスポット」の市公共施設等への設置促進	総務部総務課
事業運営のためのニーズ把握	○ 「水に関する意識調査」（毎年度調査）の実施、結果の分析 ○ 各種イベント等で実施するアンケート及び上下水道モニター制度等による広聴活動の展開	総務部総務課 経営戦略室

方針② ゆたかにする

取組	2019（平成 31）年度の実施内容／目標等	所属
① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献		
琵琶湖疏水の魅力の 更なる向上と情報発信 8 ページ参照 （琵琶湖疏水通船事業）	○ 疏水路の維持管理・整備、石積の補修 - 疏水路の維持管理・整備の実施（緑地維持管理、土砂浚渫、施設の点検整備、石積整備等） ○ 琵琶湖疏水記念館開館 30 周年記念事業の実施 - 飲食イベント、特別展、連続講座等 ○ 琵琶湖疏水通船において、3 隻目となる船舶の新造	総務部総務課 水道部施設課
琵琶湖疏水通船の プロモーション等 8 ページ参照 （琵琶湖疏水通船事業）	○ 国内外に向けた疏水の魅力 P R - 首都圏を中心とした情報発信の展開 - SNS 広告等による事業プロモーション ○ 人材育成等の運営支援 - 琵琶湖疏水の魅力を伝えるガイド等（多言語ガイドを含む）の人材育成の実施	総務部総務課
京都のまちなみ保全や景観の向上への寄与	○ 青空美術館等の取組の推進 道阿弥幹線公共下水道工事における「青空美術館」の実施	水道部管理課 下水道部下水道建設事務所

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
② 創エネルギー・省エネルギーによる低炭素社会の実現への貢献		
温室効果ガス排出量削減のための取組の実施	○ <u>創エネルギー対策の実施</u> 8 ページ参照（大規模太陽光発電事業） ・ 太陽光発電，小水力発電による再生可能エネルギーの利用 ○ 省エネ・高効率機器の採用，使用電力の削減 ・ 新山科浄水場高区送水ポンプ更新工事（事業年度：2016～2019 年度） ・ 伏見水環境保全センター合流系反応タンク設備工事（事業年度：2018～2019 年度）	技術監理室監理課 水道部施設課 下水道部下水道建設事務所
環境マネジメントシステム（EMS）の運用による環境負荷の低減と情報発信	○ 本庁舎，事業所，浄水場及び水環境保全センターにおける環境マネジメントシステムの継続的運用 ○ 環境報告書の作成・発行	技術監理室監理課
③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献		
下水汚泥処理施設の再構築	○ 鳥羽水環境保全センター下水汚泥固形燃料化事業（事業年度：2018～2020 年度）	下水道部設計課，計画課
下水汚泥の有効活用推進	○ 消化ガスの汚泥焼却炉等への利用 ○ 脱水汚泥及び焼却灰のセメント原料への利用	下水道部施設課

視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上		
技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成	○ 採用5年目までの職員を対象とした専門技術研修の実施 ○ 水道技術研修施設の運用 ・ 上下水道局職員の技術研修を実施 ・ 他都市事業体受入研修の開始 ○ <u>下水道事業に係る体験型研修施設の整備</u> 9 ページ参照（技術継承に向けた体験型研修施設の整備） ・ 下水道体験型研修施設整備工事（事業年度：2018～2019 年度） ○ 技術研修マネジメントシステムの試行 ○ 「聴く力・受け止める力・伝える力」向上研修の実施 ・ ファシリテーター養成講座の実施 ・ プレゼンテーション研修の実施 ○ キャリア形成支援，人事交流等の推進 ・ 市長部局との交流，国・他都市・他団体等への派遣の充実の検討・実施 ・ 民間企業派遣研修の実施	総務部企業力向上推進室，職員課 水道部管理課 下水道部管理課，設計課，計画課
職員の意欲・能力を更に発揮できる活力ある組織風土の醸成	○ 柔軟な働き方の仕組みの検討・構築 ・ 育児・子育て・介護に関する休務等に係る取得要件の見直しを実施 ・ 朝型勤務の実施 ○ 若手職員の意欲向上を図る取組の実施 ・ 若手職員・グループ等の交流機会の創出 ・ 資格取得支援制度の対象資格拡大 ○ コンプライアンスの徹底を図る取組の実施 ・ 職員のコンプライアンスに対するより一層の意識向上を図るための研修等の実施 ・ 服務監察及び業務監察の実施	総務部企業力向上推進室，職員課

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携		
市民・事業者の皆さまと一体となった事業推進	○ 水道・下水道の御利用等に係る情報発信 ・ メーター点検訪問時の広報物配布等 ○ <u>市民向け講座の検討・実施</u> 9 ページ参照（市民向け講座の開催） ○ 市民・事業者による体験型研修施設の活用 ○ オープンデータの推進 ・ ポータルサイト掲載データセット数（新規及びデータ形式の見直し） 目標 5 件 ○ 公契約基本条例に基づく取組の推進 ・ 分離分割発注の推進など市内中小企業の受注等の機会の増大	総務部総務課， 契約会計課 経営戦略室 水道部管理課
関係団体と一体となった技術力の向上・技術継承の推進	○ 上下水道サービス協会の在り方の検討 ・ 水道・下水道事業の技術力の向上・技術継承の在り方の検討	経営戦略室

方針② ささえる

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減		
施設マネジメントの実践	○ 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施 ○ 庁舎の長期修繕計画策定 ○ 庁舎の長期修繕計画の運用開始	経営戦略室 技術監理室監理課 水道部管理課 下水道部計画課
工事検査手法の改善及び体制強化	○ 工事検査の手法改善（本格運用）及び検査体制の強化	技術監理室監理課
② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化		
業務執行体制の効率化及び活性化	○ 第6期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編，職員定数の削減（△27人） ○ <u>民間活力の導入の推進</u> 9 ページ参照（民間活力の導入（お客さま窓口サービスコーナー，水環境保全センター水処理施設運転管理業務）） ・ 本庁舎お客さま窓口サービスコーナー運營業務の委託化 ・ 石田水環境保全センターにおける運転管理業務の委託範囲の拡大 ○ 庁舎の再編等 ・ 水道管路管理センター南部配水管理課・南部給水工事課の移転及び集約	総務部職員課， お客さまサービス推進室 水道部管理課 下水道部施設課
ICT活用によるコスト縮減	○ イントラ管理用サーバ群のサーバ仮想化の実施 ○ 水道・下水道管路のデータベース（管路情報管理システム）の統合に向けた検討 ○ 業務システムに係る新たな技術導入に向けた調査・研究	総務部総務課 技術監理室監理課 水道部管理課 下水道部管理課

取組	2019（平成31）年度の実施内容／目標等	所属
③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化		
長期的な財政目標達成に向けた財政基盤の強化	○ 資産維持費等のこれまでに確保した自己資金の活用による企業債残高の削減 ・ （水 道）建設改良積立金 21 億円の確保、企業債残高△45 億円の削減 ・ （下水道）減債積立金 7.7 億円の確保、企業債残高△97 億円の削減 ○ 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保 ・ 建設改良積立金及び減債積立金 34.5 億円の確保 ○ 企業債償還方法の見直し等による総支払利息の削減（以下、前年度予算比） ・ （水 道）△2.2 億円の削減 ・ （下水道）△6.4 億円の削減	経営戦略室
保有資産の有効活用をはじめとした増収策の検討・実施	○ 南北拠点整備に伴う空き施設の全庁的な活用に向けた準備及び売却・貸付の推進 ○ 土地開発公社先行取得用地買戻しに係る積立金の確保 ○ 保有資産の有効活用の検討及び売却・貸付の推進 9 ページ参照(保有資産の有効活用) ・ 保有資産の有効活用に向けた商品化（測量、境界確定等） ○ 水需要喚起策の実施及び新規施策の検討 ・ ミスト装置の更なる普及促進等 ・ 利き水体験やお風呂の魅力や効能を啓発するワークショップ等の参加型・体験型のイベントの実施（再掲）	総務部総務課 経営戦略室
④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討		
継続的な経営改善と経営状況の情報発信の推進	○ 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理 ○ 経営審議委員会等の意見を踏まえた経営評価制度の充実及び実施 ○ 経営状況に係る情報発信 ・ 経営審議委員会の意見等を踏まえた経営評価冊子の作成及び公表 ・ 水道事業・公共下水道事業の一体的な予算・決算情報の公表	経営戦略室
適正な料金・使用料体系・水準の検討	○ 水道施設維持負担金制度の運用 ○ 料金制度に係る課題の抽出及び調査・研究の実施	経営戦略室



＜経営評価制度の実施について＞

上下水道局では、水道事業・公共下水道事業の適切な執行管理や継続的な改善と市民サービス向上を図るとともに、市民の皆さまに対する説明責任を果たし、市民の皆さまの視点に立った市政の実現を図ることを目的として、「経営評価」を実施し、その結果を上下水道局のホームページで公表しています。

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007538.html>)

なお、単年度計画について進捗管理を行い、上半期ごとに公表しています。

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007498.html>)



＜中期経営プラン(2018-2022)に掲げる数値目標一覧＞

区分		指標名	2017(H29) 実績	2019(H31) 目標	2022 目標
プラン全体の目標		事業に対する総合満足度	65% (2015 年度)	70%以上	70%以上
視点① 京の水をみらいへつなぐ	① つくる	異臭(かび臭)のない水達成率	99.1%	100%	100%
		浄水施設の耐震化率	51.0%	51.0%	76%
		配水池の耐震化率	28.1%	31.3%	54%
	② はいぶ	有収率	90.5%	90.7%	91.0%
		老朽配水管の解消率	23.0%	31.9%	47%
		主要管路の耐震適合性管の割合	51.3%	54.0%	58%
		下水道管路改築・地震対策率	11.4%	18.1%	28%
	③ きれいにする	高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	100%
		処理施設の改築更新数	—	累計 16 施設	累計 37 施設
		合流式下水道改善率	63.1%	67.3%	96%
	④ まもる	飲料水の備蓄率	48.5% (2015 年度)	51.1%	55%
		雨水整備率(10 年確率降雨対応)	28.0%	29.2%	33%
	⑤ いどむ	新技術等の調査研究件数	73 件 (2013-2017 年度)	年間 18 件	90 件 (2018-2022 年度)
視点② 京の水でこころをはぐくむ	① こたえる	窓口、電話対応のお客さま満足度	58.0% (2015 年度)	60.8%	65%
		インターネットを活用したサービスの利用件数	年間 3,500 件	年間 8,500 件	累計 45,000 件
		広報活動の認知度	32.7% (2015 年度)	33.5%	35%
	② ゆたかにする	琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 250 万人	累計 272.5 万人	累計 310 万人
		事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(2004(平成 16)年度比)	19.0%	20.5%	25%
		汚泥有効利用率	23.7%	30.0%	50%
視点③ 京の水をささぐりつづける	① になう	技術系資格保持者の割合	28.8%	34%	40%
	② やむを得ない	職員定数	1,249 人	1,191 人	1,149 人
		下水道の大規模更新に備えた積立金	(未実施)	26.9 億円	50 億円
		企業債残高	4,840 億円	4,563 億円	4,149 億円



皆さまと一体となって 京都市の水道・下水道を守り続けます

厳しい経営環境の中では、市民や水道・下水道に携わる事業者の皆さまとの連携がこれまで以上に重要になります。

私たち上下水道局と共に京都市の水道・下水道を守り続けていただきますよう御理解と御協力をお願いします。

10年

保存

疎水物語

検索

飲料水は
1人1日3リットル
必要だよ。
この疎水物語だと
約6本いるよ。

京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホタルの道郎くん

24本(1ケース)で
4人家族1日分に
なるのよ！

京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホタルのひかりちゃん